日本農業の転換期

町長　馬場幸太郎

昭和五十二年度も不況による財源難の中で、町民各位の協力により計画通り町政を推進することができ感謝申し上げます。

昨年をふりかえり主な事業を上げると、まづ生活関連道路の整備を始め、上水道事業等順調に工事が進み給水戸数一〇〇〇戸に達したことは、皆様の健康と公衆衛生の向上に大きく寄与していると思います。

東陽病院についても、外科の開診により、医療確保と、病院経営の改善が図られ、公立病院の存在価値を高めつつあることはご同慶に存じます。

十月一日より実施してきた生活改善の推進も、町民各位の理解と協力により生活の簡素化、合理化がなされ成果があがっています。

しかしながら、要綱の完全実施まではまだ時間が要すると思われるので、今後も必要に応じ会議を開き、現状を把握し、根気よく目標達成に努力するつもりであります。

又、食肉センターは役職員のご尽力と、業者各位の協力により好業績をあげ、更に血液分離施設の改善により一日当りの処理頭数も増え、業績の向上が図られています。経営実績も、県下では無論のこと関東地区でも芝浦と場を除いては、一、二位を争うものであり地域畜産業の振興に大きな役割を果しております。

ところで、町基幹産業である五十二年度の水稲は六月及び八月中に低温寡照の期間があり生育を心配したが、その後好天に恵まれ、全般的に作物は良好でありました。

しかしここに、生産調整という大きな問題が起りました。政府は五十二年度から米の需給の均衡と農産物の総合的な自給力の向上を図るため、八月に第二次生産調整を閣議決定し県から市町村に、転作割当をしてきました。農林省は米から転作して麦、大豆等を増産させる方針のようですが、町のような湿田地帯では転作は難しく、転作に対する条件も地域や、経営により違うので、その地域、経営に合った対応策を立て、実現させる条件整備が必要であり町としても、国県に対し、助成、転作効果の発揮できるような作目の推奨、技術指導等を行い稲作収入と、同様の経営ができるような施策を樹立すべく県町村会を通じて要望しております。何れにしても非常に重大な問題であり、農協、農業委員会、生産農家と十分話し合い、町の農業を守り地域農業の発展につながる方法を考えるとともに、また、他方長期的に見た内外の食糧事情を考え、我々、日本人として我が国で十分供給力の備わった長年の主食である米を見なおし、消費の拡大による、米需給の均衡を図ることが、島国に住む一億一千万、日本人の食糧供給の安定につながるものであることを再認識する必要があると思います。

五十二年は、日本農業が大揺れに、揺れ動き出した年である。

変貌する少年非行

春先は、少年の非行が目立って増える時期です。

ごく普通の家庭で何不自由なく育ち、性格的にも学力の点でも特にこれといった問題のない少年が罪の意識もなく、ゲームでも楽しむかのように非行に走る傾向が目立っています。

ストレスが〝非行の母〟

欲しい物は何でも手に入る恵まれた社会環境の中で、わがままいっぱいに育てられた少年たち。彼らに欠けているのは、がまんする心です。長続きがしない、忍耐力に欠ける、根性が足りない――こういった傾向の子供に共通しているのは、わがままで、自分をおさえることができない、ということです。

その結果、父母にしかられた、欲しい物が買ってもらえない、勉強がきらいだ、学校へ行きたくない――などの欲求不満がつのってストレスがたまってしまうのです。

望ましい親の態度

ストレスによる非行は、十四～五歳、いわゆる反抗期のころから増えはじめます。

〝非行の芽〟を早いうちにつんでおくにはとくに反抗期のしつけが大切です。反抗期は単なるわがままではなく独立心の芽生えでもあるわけですから、広い心で受けとめるとともに、がまんする強い心を育てたいものです。

第二反抗期（中学生期）を例に考えると、感情的に不安定で、独立心と依存心が同居し、イライラしたりカッとなる時期です。

次のような点に気を配ってください。

◎はれものに触れるような扱いは避けて、自由に自然につきあう。

◎子供扱いはやめ、自分で責任をもってやりとげる、がまん強さを身につけさせる。

早くみつけたい不良化のきざし

周囲の人は、次の点に注意し子供を観察しましょう。

◎行き先も告げず外出したり、夜遊びをする。

◎うそをついたり、そわそわ落ちつきがない。

◎親や家族などに乱暴したり、口答えをする。

◎陰語をつかったり、言葉づかいが荒い。

◎不良がかった友達が訪ねてきたり、こそこそと電話や手紙のやりとりをする。

◎理由をつけては、学校や勤めなどから遅く帰ったり、ずる休みをする。

◎金づかいが荒く、つり銭などをごまかす。

◎制服をきらい、着がえなどを持ち歩く。

◎マージャンや競輪、競馬などのギャンブルに異状な関心を示す。